

平成 2 9 年度 第 1 回碧南市図書館協議会 会議録

1 日時

平成 2 9 年 7 月 2 0 日（木） 午前 1 0 時～午前 1 1 時 3 0 分

2 場所

碧南市民図書館 2 階会議室

3 出席者

(1) 出席者

水野利亮、宮本美枝子、石川和昌、大澤伸彦、油谷修子、
杉浦正勝、神谷猛、神谷俊幸、石川まさ恵（欠席者 1 名）

(2) 事務局職員

教育長 生田弘幸、教育部長 奥谷直人 文化創造課長 村松幸雄、
市民図書館副館長 関由香、南部分館長 大橋幹広、
中部分館長 長谷川有里

4 傍聴者 0 名

5 協議会内容

市民憲章唱和

(1) 会長あいさつ

(2) 教育長あいさつ

(3) 自己紹介

(4) 議題

ア 平成 2 8 年度図書館の事業実績について

事務局：平成 2 7 年度末の蔵書数は 5 5 0, 6 4 5 冊で、平成 2 8 年度末の蔵書数は 5 5 2, 1 1 8 冊となり、約 2, 千冊弱の増。受入資料数のうち、購入したものは 1 0, 6 7 5 冊、寄贈等は 1, 5 2 9 冊で合計 1 2, 2 0 4 冊を受入した。なお、平成 2 8 年度の除籍資料数は 1 0, 7 3 1 冊であった。平成 2 8 年度の貸出冊数は、本館が 3 9 7, 2 0 3 冊で、昨年度より 1 7, 0 0 0 冊余の減。南部分館の貸出冊数は 7 4, 4 5 8 冊で、昨年度より 6, 0 0 0 冊余の減。

中部分館の貸出冊数については、８９，８５１冊で、昨年度より９，０００冊余の減。公民館を含めた全館での貸出冊数については５６２，６２４冊で前年度より３３，０００冊の減となった。図書館の利用者数については、貸出等を利用した人が、全館で１２２，２０４人と、前年度より８，０００人余の減。資料の貸出を利用しなかった入館者数は２９３，０９１人で、前年度より８，２００人余の減となった。すべての項目において減少しているが、全国的にみても、図書館の利用率は減少傾向にあり、碧南市の図書館も例外ではなく、利用率が低下している。

【質疑応答】

A 委員 : 学校の名簿が切り取られる事件があったが、最近の状況は？
また、碧南市の実態と対策、近隣の状況については？

事務局 : 学校史の切り取りや破損が岐阜県内の図書館で発見され、その後、愛知県内でも発生し、新聞などでも大きく取り上げられた。愛知県図書館からも学校史の切り取り等に関する調査依頼があり、当館でも調査を実施したが、被害は無かった。その後、三河地方の図書館でも切り取りの被害にあったとの情報が入った。今のところ、当館での切り取りの被害は無いが、今後、発生する可能性もあるため、学校史などの関係資料は閉架で保管している。ただし、複本のある資料については、開架に出している。資料を閉架に移動すると、保存の面では良いが、利用したい人にとっては、わざわざ職員に声を掛けて、地下から資料を持って来てもらわねば資料を見ることができず、ご不便をおかけしてしまっている。しかし、学校史などの資料は地域資料と言われる、現地の図書館が責任を持って保存しなければならない資料であるため、利用しやすさよりも、保存を優先した。学校史以外の資料、例えば新聞では、同じ人が、同じような部分を繰り返し切り取るという傾向がみられる。雑誌も同様で、一度切り取りがあった雑誌は、次の号も切り取られる可能性が高いため、

切り取りを発見したら、職員のいるカウンター内で雑誌を保管し、利用したい場合は職員に声を掛けてもらうようにし、被害が無くなれば、また、通常の状態に戻すようにしている。切り取り対策は、いたちごっこのような状態である。館内に監視カメラはあるが、常に見張っているわけではないし、目の届かないトイレに持ち込まれるかもしれない。切り取りや破損はなるべく早く発見し、被害が拡大しないよう迅速に対処するしかない。

B 委員 : レファレンスの職員は些細なことでも親切に対応してくれる。配布資料の中にある、レファレンスサービスの事例を見ると、碧南の白しょうゆから、ハスの葉の上を水滴が転がるのはなぜかまで、さまざまな年代のあらゆる質問に、迅速に対応できている。対応する職員は大変だと思うが、利用者にとってはとても良いことである。年間6,700件もの相談に対応しているのはすごいことだ。

会 長 : 利用者数や貸出数も減少しているが、どのような理由があると考えているか？

事務局 : 個人的な考えだが、理由は複数ある。まず、若い世代にインターネットが普及し、読書を実物の本ではなくスマホで済ましてしまう人が増えてきたことが理由の一つと考えられる。それが顕著に現れているのが、料理本の貸出数である。以前なら30～40代の女性がよく借りていたが、貸出数が減っている。現在は、「クックパッド」などネットで簡単にレシピが検索できる。しかし、ネットの情報では十分ではないと感じた人が、レファレンスサービスを利用するケースもあり、館内にある資料を利用者に渡すと、書籍の方が詳細に記載されていると、喜ばれることもある。また、全国的に貸出数が減ってきていると説明したが、出版不況といわれ、出版点数自体も減少している。昔は『ハリーポッター』のような大ベストセラーと呼ばれる本もあったが、現在はそのような本もなく、落ち着いた状況である。図書館界の中でも、貸出冊数

だけを図書館の利用率の指標とするのは、そぐわないとの考え方もある。静かな館内で読書するなど、貸出以外で図書館を利用する流れもみられる。ネットばかりで本を読まない人が増えたとも言われているが、逆に、海外では紙の本を読む人が増えてきているとも言われている。利用者の動向をこまめに見ながら、より利用者を増やせるよう、試行錯誤していく。

会 長 : 『図書館 100 連発』という本で、利用者の多い図書館の例を見ていると、貸出以外の館内利用者を増やすには、ハード面を伴わないと、難しいのではないかと感じる。また、除籍の基準はよくわからないが、古い資料でも残しておいた方が良い資料もある。昨年度、歴史の分野で 221 冊を除籍しているが、たとえば、三河地震に関する資料などが含まれていることはないか。古くても貴重な資料はある。どのような基準で除籍しているのか教えていただきたい。

事務局 : 除籍基準はある。基本、出版から 30 年以上位を経過した資料を除籍することになっているが、三河地震や歴史、文学などの資料は、30 年、40 年以上経過しても、除籍することはほとんどない。さきほど歴史、200 番台の除籍について触れられたが、200 番台には旅行のガイドブックも含まれている。旅行のガイドブックは、新しいものが入れば、古いものはほとんど利用されなくなるため除籍している。除籍数 221 冊の大多数は、この旅行ガイドブックだと思われる。他にも、利用率が低い資料は、県内の複数の図書館に同じ資料が所蔵されていることを確認してから除籍している。例えば、30 年以上前のソ連の経済を分析した資料や、法律の解説書などは、利用状況を確認し、これ以上利用が見込めないなと思ったものを抜き出し、かつ、県内の図書館に所蔵があるかを確認してから、除籍するようにしている。当館の閉架書庫はもともと保管できる冊数が多く、今まではそれほど除籍しなくても良かったが、最近は閉架の空きスペースも少なくなり、資料を入れるためには、何か

を捨てなければならない状況であるため、利用が見込めない資料は除籍していく。

C 委員 : 年報の 33 ページの図書館事業実績に、「リサイクル本バザー（友の会主催行事）」があるが、実績の表示がない。たとえば、販売した人数、冊数を記載し、どれほど大変な事業かわかるようにしてもらいたい。

事務局 : 38 ページのボランティア団体の活動の部分で、詳細が記載されている。今まで、「リサイクル本バザー」は図書館の事業実績に掲載していなかったが、友の会との共催事業なので今年度から掲載することにした。

C 委員 : バザーの事業実績にある参加者数とは、参加したスタッフの人数か？

事務局 : 参加したスタッフの人数である。

C 委員 : 他団体のイベントには、参加した児童など参加した客の数が掲載されているのに、リサイクル本バザーだけスタッフの人数では、客が何人来て、何冊販売し、どれだけの売り上げがあった事業なのかが見えてこない。

事務局 : 販売冊数は、友の会からの報告で把握しているが、どれだけの客がこの行事に参加したのかはわからない。

C 委員 : 本の購入者数が参加者数と思ってもらえればよい。

事務局 : 参加者数を記録するのは難しいが、販売冊数などを記載したいということか。

C 委員 : 参加者数のところでなくとも、販売冊数や売り上げをイベント内容の欄に記載してもらってもよい。

会 長 : 団体活動（内容）のところに神谷委員が言われたことを記載し、33 ページの図書館事業実績のところに、「詳細は団体活動を参照」と載せておくということでどうか。

事務局 : 友の会と相談する。

C 委員 : 3 日間で延べ 83 人が参加し、ただ集まってお菓子を食べて話して帰っているわけではない。売り上げが 10 万円以上の事業な

ので、冊数と購入者数、売上額は記載しておいていただきたい。

イ 平成 29 年度図書館の事業計画及び関係予算について

事務局 : 『碧南市の図書館 2017』の 4 ページにあるように、昨年度からシルバー人材センターに月 1 回、草取りボランティアとして入ってもらうことになった。同じく、昨年度、「碧南市の図書館サービス計画（第二次）」の策定という大きな事業があった。当館に来館するきっかけとして、友の会との共催事業やボランティアグループと協力して開催しているおはなし会などさまざまな行事を実施しているので、平成 29 年度に計画している行事について、各館より説明させていただく。

本 館 : 本館では、明日、定例行事でもある小学生を対象とした工場見学があり、今年は、えびせん工場を見学することになっている。昨年度は、しょうゆサミットが開催されたこともあり、その関連事業として白しょうゆの工場見学に行った。今年も昨年と同様に、碧南市内の特徴的な産業を子どもたちに紹介したいと考え、スギ製菓さんに依頼して、えびせん工場を見学することとした。工場見学との関連イベントとして、えびせんについて、より理解を深めてもらおうと、図書館内でえびせんのクイズラリーを実施した。さらに、「調べ学習講座」でも、えびせんのこと調べられるよう準備を進めている。7 月 1 日には、友の会の主催で、「音楽と朗読の夕べ」を開催した。市内在住のヴァイオリニスト熊谷祥子さんの演奏と、夢クラブさんやかざぐるまさんによるおはなし会を、普段は飲食禁止の館内で、特別にお茶とお菓子を食べながら楽しんでいた。土曜日の夜に開催したが、200 人以上の方々が集まり、盛況だった。

C 委員 : 235 人くらいの参加があった。

本 館 : 友の会の主催行事だが、図書館のスタッフだけでは足りず、昨年度開催したもちつきのイベントで裏方をしてくださった方々にも手伝っていただいた。

本 館 : 秋の読書月間には、変身コスプレショーという、若者向けのイベントを開催する。コスプレを審査し、賞品を渡す。審査員は友の会に依頼し、一緒にイベントを盛り上げてもらいたい。

南 部 : 南部分館は南部市民プラザの中にあり、体育館も併設されている。昨年から、図書館の行事に体育館を利用することにした。今年の6月10日に「チューブプレーンで遊ぼう」というイベントと8月5日に「おばけのおはなし会」、それと、まだ予定ではあるが、3月にも体育館を使用して工作教室をやろうと考えている。「おばけのおはなし会」は、昨年は、アリーナを真っ暗にし、自分（職員）がミイラ男に扮して登場した。今年も「おばけのおはなし会」におばけ役として登場する予定だが、昨年とは違う形で登場しようと考えている。体育館でのおはなし会を楽しみにしてくれる子どもたちも増えた。図書館に来るきっかけづくりとして、小さな子が飽きないよう、アリーナでのおはなし会を今後もPRしていきたい。また、南部には、卓球やバドミントンをするために体育館に来る利用者もいるので、体育館だけの利用で終わらず、図書館にも足を伸ばしてもらえそうな企画もしていきたいと考えている。

中 部 : 6月に実施した図書館まつりでは、図書館クイズや工作クイズなどを開催した。夏休みにはおはなし会や工作教室を、秋の読書月間には、これまで折り紙で作っていた干支を、粘土の焼き物で作る大人の工作教室として開催する予定。その場で、参考にした資料を紹介するなどして、資料や図書館自体にも興味を持ってもらえるような行事を実施し、今まであまり図書館を利用する機会の無かった方々にも来館していただけるようにしていきたい。

事務局 : 予算について、前年度より変化のあった部分を中心に報告する。
「2 図書館施設維持管理事業」とは、図書館施設の維持管理に関わる予算で、今年度は、28万8千円の増となっているが、これは、図書館本館の地下にある電動で動かす棚の点検費用の

予算がついたためである。今まで（費用の都合で）点検ができ
おらず、動作の不具合も増えてきたので、今年度点検を実施
することにした。その他には、図書館公用車のタイヤ交換の予算
がついている。「ボランティア活動推進事業費」とはボランティ
ア活動をしてくださっている方々の資質の向上に要する予算で
ある。昨年より予算が12万3千円減となったのは、ボランティ
ア用のパソコン購入し、今年度はそれが不要となったためで
ある。「9 中部分館施設維持管理事業」とは、中部分館の施設
維持管理に要する予算である。ここには、光熱費、設備点検委
託費などが含まれている。昨年度より39万2千円の減となっ
たのは、昨年度は消火器の取替え、雨漏りの修理、椅子の張替
え等を行ない、それらが終了したためである。同じ施設維持管
理費用でも、「2 図書館の施設維持管理事業」の予算は38万
円余で、「9 中部分館の施設維持管理事業」が600万円以上
と金額に差があるのは、本館の場合、光熱費や設備点検など
にかかる費用（委託料）は芸術文化ホールの指定管理者が負担
しており、図書館で予算を計上しないためである。「11 市民図
書館費臨時費用」については、図書館の管理運営に関する臨時
的な経費で、今年は62万7千円の予算がついた。主に、2階
のベビーチェア取り付け工事や遮光カーテンの取り付け工事な
ど、施設の改善に関する工事を予定しているためである。少し
補足させていただくと、先ほどご指摘のあったソファの張り
替えについては、図書館の予算にはあがっていないが、芸術文
化ホールの指定管理者の予算で、毎年、汚いものから順番に張
り替え修繕を行っている。予算の残額で行うため、一度にすべ
てを張り替えることはできないが、少しずつソファの張り替
えをしている。本を買う予算にあたる資料購入費については、
「4 図書館用図書整備事業」、南部分館は「南部分館運営事業」、
中部分館には「中部分館運営事業」に含まれている。本館は、
1,4007万円、中部分館については239万9千円、南部

分館については237万9千円で、3館合わせて、1,877万8千円となり、昨年度と同額である。

A委員 : 9ページの予算について、「4 図書館用図書整備事業」の中で、本なら本だけに限定してもよいので、「図書館用図書整備事業費」のうち資料購入費はいくらなのか金額もわかるように記載してもらいたい。そうすれば、この予算が何に使われる予算なのか理解しやすい。せつかく事前に会議資料を送ってもらっても、説明が無ければわからない。詳細な記載は不要なので、一目でわかるような予算資料を作ってもらえると良い。

会 長 : 図書館といえば本を連想するので、図書購入費は書いておいたほうが良いと思う。

A委員 : 今、将棋で藤井聡太くんが注目されているが、図書館でも反響はあるのか。

事務局 : 子ども用の将棋本がたくさん出版され始めてきたと感じるのが影響の一つ。また、先日も、子ども用の将棋の本が古くなっていたため買い替えたが、すぐに借りられたことから影響力は強いと感じた。

中 部 : 中部分館では、中央小学校のこころの相談室の先生から、将棋の本を入れてくれという要望があり、影響力はすごいと感じた。

A委員 : 特に、子どもにとって、本は身近なもので、長い付き合いになるものなので、少ない購入予算の中でも、話題の本は、子どものためにも力を入れてもらいたい。

会 長 : 友の会やボランティアとの連携事業や、図書館独自の事業など、さまざまな形で事業を実施しているが、何か意見はあるか。

(特になし)

ウ 「碧南の図書館サービス計画（第二次）」進捗の報告について

事務局 : 「図書館サービス計画」の第二次が完成した。この計画は10年という長期的な計画で、より良い図書館を目指すためにすべ

きことを、さまざまな項目ごとに分けてあげたものである。計画だけになってしまわないよう、この図書館協議会で進捗状況の報告をさせてもらいたい。A3の資料の中に、第2次計画の具体的な取り組みがあるが、状況を数字で報告できないものもある。平成29年が1年目で、平成33年までが前期にあたる。昨年度の数値が入るところには入れ、それを基準値として、みなさまに報告させていただく。資料にはAやBなどの記号が入っているが、「A」は、現在実施していて、今後も継続していくもの、「B」は計画中に実施していくもの、「C」は計画期間中に実施ができないかもしれないが、今後実施していきたいものである。また、数値が入っているものは、すでに実施している項目になる。数値について、修正した方がよい点などあればご意見をいただきたい。例えば、(1)資料の収集の項目の中で、碧南市に関する資料の積極的な収集という点において、郷土資料の登録数をあげている。また、芸術文化ホールの催事に関連した資料の収集とは、ホールに来る演奏者のCDなどを収集しており、昨年度は2点買い足した。資料の保存と廃棄では、効率的かつ適正な蔵書の保存ということで、蔵書の更新率があらわされており、受入冊数と除籍冊数を、全体の蔵書数で割った数値で、4.15%であった。新しい本が全体の何パーセントかという蔵書新鮮度は2.2%であった。10,731冊を除籍したが、受け入れ冊数は12,204冊であるため、すでに棚は満杯の状態である。本来であれば、受け入れ冊数と同じ約12,000冊を除籍するのが管理上妥当だが、やりきれていない。他には、インターネット用のパソコンの台数や、レファレンス件数などもあげている。今後、計画の下、どう数値が変わっていくか報告させていただきたいと思っている。なお、このサービス計画の進捗状況については、毎年、第1回目の図書館協議会のときに、数値を入れた状態で報告していきたいと考えている。

会 長 : 項目や興味のあることで質問があればどうぞ

D 委員 : 計画の取り組み時期の「A」と「B」と「C」の分け方がよくわからない。たとえば、「落ち着いて楽しめる読書スペースの確保」とか「妊娠期の保護者を対象とした図書館 P R 行事の検討と実施」が「C」（計画期間中に実施検討・調査するもの）と評価されているが、これらは簡単に出来そうなことだが、なぜ実施できないのか。

事務局 : 図書館だけでなく、保育園等の他の施設などにも考慮しているためである。園は保育の場が主であり、落ち着いて楽しめる読書スペースをすぐに確保するのは難しいということで、努力目標の「C」とした。また、「妊娠期の保護者を対象とした図書館 P R 行事の検討と実施」については、「碧南市子ども読書活動推進計画（第三次）」を作成するときに調査をし、どのような場所で P R できるかということを調査したとき、想定外の場所が P R 場所としてあげられ、今のところ、P R をするためにそのハードルを越えることは難しいと判断し、「C」とした。

A 委員 : H P の活用というところで、6, 847 件というのはどういう数字なのか？

事務局 : 図書館システムが更新され、図書館の H P も新しくなり、アクセス数の解析ができるようになった。同じ人が 1 日何回もアクセスしているかもしれないが、1 ヶ月に当館の H P にアクセスされた数字を指している。昨年度は 1 ヶ月に 6, 847 件あって、一昨年と比較して、106 パーセントの増加となった。昨日も芥川賞と直木賞の受賞者が発表された際、朝一番で受賞作品の予約を確認したところ、予約が殺到しており、夜間に、ネットからの予約を利用する人が近年増えていると感じた。今後は、貸出冊数とは別に、こういった数字も図書館利用の数字として反映させていきたい。

A 委員 : 『碧南市の図書館』の 27 ページに書いてある、ベストリーダーというのは、この冊子でしか確認できないのか。一般の人が見

る方法はあるか。一つの情報として、ベストリーダーの一覧をどこかに掲示したり、けやきどおり通信に掲載したりして、碧南市の図書館では、年間でこういう一般図書がよく利用されていた、ということを利用者にも周知してはどうか。

事務局 : けやきどおり通信に掲載することもあるが、毎年、必ず掲載するというわけではないので、入り口付近の掲示板に掲示して対応したいと思う。おっしゃるとおり、こういった情報が貼つてあると、自分はまだ読んでいないから借りてみようとする方もいらっしゃると思う。

A 委員 : 年に 1 回、1 年間ずっとでなくてもいいが、どこか目の留まる場所に貼っておくと、利用者が興味を持ってくれるはず。

C 委員 : 碧南市の図書館の 9 ページから 10 ページに、南部分館の蔵書収容能力が 4 万冊とあり、中部分館の蔵書収容能力も 4 万冊とありますが、実際の蔵書数は、中部分館が 6 万冊、南部分館が 5 万冊となっている。

事務局 : 収容能力の計算方法が、資料 1 冊あたりの厚みを何センチと設定し、書架の延べの長さで算出している。実際には、設定した厚みより薄い資料など資料の形態はさまざまなので、収容能力よりも多めに入る。

C 委員 : 本館は、こまめに除籍をしているからか、収容数と蔵書数にあまり差が無い。

南 部 : 本館よりボリュームの少ない(厚みの少ない)資料が多いので、蔵書収容能力を超えてるからといって、窮屈になっているわけではない。

A 委員 : この図書館が作られた当初のイメージは知らないが、館内が少し暗い。上からは光が当たるが、少し横から見ると、光があまり当たらないように感じる。もともと、少し暗いイメージで作られたのかもしれないが、最近出来た図書館を見ると、どの図書館もすごく明るい。安城のアンフォーレはとても明るいので、それと比較してしまうと、碧南市はやはり少し暗い。例えば、

碧南の図書館の新刊図書コーナーは照明と照明の狭間にあり、明るさが不足しているように感じる。そのような面からも、開館から20年以上経過した自分たちの図書館を見てみてはどうかと思う。

会 長 : この図書館ができたとき、他の図書館にはなかったであろう、飲食コーナーがあった。食べながら読書しては駄目だと言われて育ってきたので、図書館での飲食は駄目だという先入観があった。しかし、友の会の事業で、飲食可能なイベントを図書館で開催したところ、多くの方が参加してくださったというのを聞き、時代は変わったと思った。昔の人間の感覚とは違い、今は、食べながら、飲みながら読書するという感覚が浸透してきているようだ。そうすると、やはり、先ほど部長がおっしゃったように、このあたりで少し、図書館のイメージチェンジをすることが大切なのではないかと思う。

E 委員 : 安城のアンフォーレがオープンしたので、自分も行ってきた。すごい施設だと思った。1階には多くの出店があり、それを目当てにきている親子連れもいて、上には立派な図書館施設もあり、すごいと感じた。今は、いろいろなイベントと組み合わせることが、施設利用者を増やす一つの方法なのかもしれないと考えさせられた。名古屋では、三省堂がオープンし、本屋でありながら、カフェも併設し、本を購入しなくても、コーヒーを飲みながら読書が楽しめる。民間企業がしていることを、すぐに碧南市の図書館でも取り入れることは難しいと思うが、時代が変わってきていると感じる。図書館本館では、きらきらウォーク開催時に市民の方々がたくさん集まるし、芸文の野外ステージにもたくさんの方が参加している。夜間に図書館を開館することは難しいかもしれないが、そういったイベントと上手にタイアップすることで利用客を増やしたり、南部分館の場合は体育館の利用者を取り込んだり、中部分館は文化会館の利用者や元気ッスなどのイベントを併用するなどして、各施設の特長

を生かし、まずは図書館に入ってもらえるようPRも含めて頑張ってもらえるとよい。

6 その他

[駐車場について説明]

事務局 : 以前から駐車場が少ないと言われていたが、芸文ホール裏側の第4駐車場の南側に20台ばかりの駐車場を確保した。図書館からは少し離れているが、今後も駐車場確保をしていく。

会 長 : 新しい駐車場に看板はあったか。

事務局 : 看板はある。

会 長 : 通るときに看板は見えるか。

事務局 : 北から来る車と、クランクを通ってくる車の、両方から見えるよう看板を立ててはいるが、駐車場自体が奥まった場所にあるため看板が見えにくいかもしれない。

事務局 : 停まれば見えるが、見えづらい。

A委員 : 駐車場は合計294台と記載されているが、新しい駐車場の20台分も入れた数字か。

事務局 : 新規20台分を含めた数字である。